



since 1986 健康と温泉フォーラム第100回記念月例研究会

テーマ 「コロナ禍を超えて日本の温泉の今後—提言集から見てきたこと」
-Focusing on Expert Opinions of Onsen in the Era of COVID19-
(ONLINEライブ形式)

- 主催：特定非営利活動法人健康と温泉フォーラム
共催：一般財団法人日本健康開発財団 特定非営利活動法人日本スパ振興協会 地域活性学会
併催：日本温泉気候物理医学会温泉療法医研修プログラム（1単位）
- 日時：2021年10月27日(水) 14：00～17：00 入室13:45-
- 定員：定員80名先着順（事前登録が必要で、登録完了後パスワードやIDをお知らせいたします）
- 参加料：無料
- プログラム（予定）
 - 1400-1420 開会挨拶、テーマの背景説明、テクニカルアドバイス他
 - 1420-1510 第一部ー 講演5題 各10分
 - 1515-1700 第二部 質疑応答 まとめ 閉会挨拶
- 講演要旨 司会 関口陽一（経済産業研究所上席研究員）、坂本誠（政策研究大学院大学）

○「温泉地行政の観点」江頭実：（熊本県 菊池市長）



コロナ禍は人の心や価値観を根底から揺さぶる契機となり、いのちや健康といった本源的な価値の気付きや近年臨界点に達していた経済グローバル化の様々なひずみと地域の幸福の有り様を改めて考えるきっかけになった。現在、自治体の長として市民の健康と生活の確保に全精力を傾けているが、これから再構築されるであろう大きな社会的価値観を模索するなかで、域内の温泉や自然資源を「命の洗濯場所」として積極的に活用し、官民連携で、新たな健康スタイルと地域の発展をどのように市民に提供できるか勇氣ある選択を模索している。

○「旅館経営の観点」大沼伸治：（宮城県 東鳴子温泉旅館大沼五代目湯守）



温泉に携わる人たちが都合の良い温泉利用だけに終始していることで、温泉の本質が忘れ去られることを危惧しています。温泉の社会的活用や温泉（宿）地経営、温泉文化の保護の関してはまず自分たちが置かれている環境において先ず何を軸にして取り組むのかを明確化することが必要です。私達のような湯治場は幸いなことに昔から人や情報のプラットフォームとして成り立っていました。情報化社会の現代だからこそ、リアルな自然や温泉をベースとしながらも、人と人の触れ合いやつながりを醸成していくことの本質は変わることなく、いずれコロナ禍を超えて、私達温泉人と温泉の未来とに繋がっていると思います。

○「医療の現場の観点」小笠原真澄：（秋田県 大湯リハビリ温泉病院院長）



医療・保健部門では、温泉の今後のあり方として柱になるべき活動は、健康増進・介護予防等に寄与する温泉の効果についてのエビデンスの蓄積であると提言されている。そのための研究課題の例として、COVID-19下のストレスへの効能、大浴場での接触リスクの回避法、入浴関連事故低減のための研究等が挙げられた。研究費として入湯税を利用できるようにすべきであり、この実現のためにも学際的な取り組みが必要であろう。これらについて私見を交えて報告する。

○「研究・教育の観点」石川理夫：（日本温泉地域学会会長、温泉評論家）



コロナ禍を従来のあり方を見直す機会ととらえ、従来の宿主体の発想から、泊・食分離や食事・滞在メニューの多様化を含め、新たな温泉地・宿経営システムとして前向きに検討する事。そしてグローバル化は一時の中断があるものの、そこから生まれる需要ニーズを我が国の多様な温泉資源とその利用スタイルを活かし、伝統である温泉文化（湯治場）の再評価を促し、同時に積極的に温泉地の個性化や差別化を図り、地域独自の自立した温泉地の原点を見直すことなどが大切と考えます。

○「関連産業の観点」伊豆芳人：（ボーダーツーリズム推進協議会会長）



観光産業は元々イベントリスクに脆弱ですが、コロナ禍は影響範囲・影響期間で破格であり、人々の生活様式や価値観の変化こそが100年に一度のイベントリスクである理由かと思えます。人の移動を前提としたビジネスモデルは再構築を求められています。一方、温泉には予防医療・免疫力向上の効果がますます期待されていますが、そのためにも温泉地の活性化・魅力づくりが大切です。ワーケーションの場所として温泉地は最適ですが、細かいサービス対応（Wifi環境、睡眠や食事への配慮など）も必要で、コロナ禍が一定の収束を見せた後もワーケーションを定着させるポイントと思えます。



返信先 FAX : 03-6804-8575

E-mail : info@onsen-forum.jp

NPO法人健康と温泉フォーラム事務局宛

参加申込書 (各□に✓をお願いします)

必要事項ご記入の上、上記FAX又はeメールで返信をお願いします。受付後ONLINE参加に必要なIDとパスコード情報 (Zoom)をeメールでお送りいたします。定員80名になりしだい先着順で締め切らせていただきます。

第100回記念月例研究会(ONLINE) (2021年10月27日 (水)) に参加します。

●お名前 (複数可)

・
・

●所属会員

- | | |
|--------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 健康と温泉フォーラム | <input type="checkbox"/> 地域活性学会 |
| <input type="checkbox"/> 日本スパ振興協会 | <input type="checkbox"/> 日本健康開発財団 |
| <input type="checkbox"/> 温泉療法医会 | <input type="checkbox"/> チーム新・湯治 (環境省) |
| <input type="checkbox"/> 日本温泉気候物理医学会 | <input type="checkbox"/> その他 |

●団体・組織名

●住所 〒

●連絡先 TEL _____ FAX _____ 携帯☎ _____

E-mail : _____ (メールアドレスは必ずご記入ください)

●お問い合わせ 特定非営利活動法人健康と温泉フォーラム

☎ FAX 03-6804-8575

E-mail info@onsen-forum.jp

